

天天中文シリーズ講座：中国語でキャリアアップ！

「中国語でキャリアアップ！」は中国でキャリアを発展させる各界の方々に、仕事の現場や中国語学習法についてお話を伺う「天天中文」のシリーズ講座。中国の各界で活躍する皆さんに、仕事や生活のリアル体験をお伺いします！

第6回（2022年2月26日）ゲスト：

宋丹（そん たん）さん

（略歴）

1967年、黒竜江省生まれ。7歳時に両親の仕事の関係で北京に引っ越し、1989年首都師範大学日本語学部を卒業、同年、伊藤忠中国集团有限公司（北京）に入社。14年間、同社食料・食品部門に勤務。日本への輸出業務を主に担当し、また、中国国内の合併事業にも関与。2004年、友人が設立した食品加工輸出入会社に投資し、共同経営方式にて経営者となる。会社は社員50名規模に成長し、工場は2か所となる。同社では主な担当は日本向け市場の販売と顧客管理。工場と会社の所在地は、河南省鄭州。

<お話の流れ>

日本を選んだ理由/出張もこなした商社時代/日本と日本人の印象は？/中国の富裕層の若者たち/満たされすぎ現象？

日本語を選んだ理由

天天中文：宋さん、今日はよろしくお願いします。

宋：はい、みなさんよろしくお願いします。宋は、宋の時代の宋、丹は牡丹の丹です。私の時代は2文字の名前が流行りで多かったのです。いまはまた3文字に戻っていますが、2文字の名前の人はだいたい私と同時代の人が多いんですよ。私は首都師範大学で日本語を4年間勉強しました。卒業後は伊藤忠中国に入り、そこで14年間仕事をして、そのあとは友達と一緒に起業しています。それも、もう約18年になりました。自分の会社も日本むけの輸出入をしてるので、ずっと日本と縁があります。日本のお客さんやお友達もたくさんいます。また日本に住んでいたり、日本人と結婚している中国人の友達も多いので、以前はよく日本に行っていました。この2年間は、コロナの影響で行くことができませんが、収束したらまたすぐ日本に行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

天天中文：さっそくなんですが、宋さんは日本語が本当にお上手ですが、そもそも、どうして当時、大学で日本語を勉強しようと思ったのですか？

宋：その時代では、中学校から英語の勉強が始まりました。私は外国語にはとても興味があってそれから6年間、英語の成績はずっとクラスのトップでした。大学に入る時もとにかくもう1つ、外国語を勉強したいと思っていて、そこで一番近い国ということもあって日本語にしました。それに、私の生まれた場所は黒竜江省で、その親戚には歴史的な関係で日本語が話せる人が何人もいました。さらに、当時は日本語の勉強は今ほど盛んではなくて、大学に入って勉強できたらいいなというのもありました。大学では継続して英語の勉強も続けるので、日本語とあわせて二つの外国語ができるようになったらいいなと思ったのです。

天天中文：なるほど。それで、英語もできて日本語もできるということもあって、商社に入れたのですね。商社ではどんなお仕事をなさっていたのですか？

宋：食糧食品部という部門で、当時の中国は完全に輸出大国でした。いろんな食糧、食材、缶詰などの食品など多くの種類のものを日本に輸出していた時代です。当時の日系の商社では中国の女性の営業職は少なく事務職が主でした。でも私の当時の上司は男女平等の意識が強い人で、中国の女性も同じようにできるという考え方でした。ですので、入社してすぐ商売の勉強が始まったのです。

天天中文：私も商社勤務で北京駐在員をしていた時代、部下に女性がいたんですよ。当時から中国の女性はパワーがあるなあ、という印象でした。日本の女性は当時、アシスタント職が主でしたよね。

出張もこなした商社時代

宋：私は会社に入って、入った年にすぐアシスタントから実務担当になりました。翌年には日本へ出張させてもらいました。伊藤忠中国のなかで初のケースと聞いています。とてもラッキーでした。いまでもその上司とはよく連絡をとっています。もう70歳を超えていらっしゃいますが。

天天中文：私も当時の部下の女性がものすごく仕事のできる人で、アシスタントでは損だと、どんどん出張してもらってました。当時、日本の女性だと「私は出張はできません」と動けない人が多かったので、中国の女性はとても進歩的にみえました。

宋：そうですね。私の家族は女の子二人の姉妹で、両親から「あなたは女の子だからこれはできない」などと言われたことがあまりないんです。二人とも大学にいて、仕事もずっとしたいと思っていましたので、仕事はよく頑張ったと思います。私が会社に入ったのは1989年なのですが、日本から出張にきたお客さんには、中国の女性と一緒に出張するのに慣れていない方も何人もいましたよ。女性と一緒に田舎に行くとか、夜行列車と一緒に乗るとか、日本では想像もできない、と言われましたよ。「女性が出張するんですか？女性なら砂糖と塩の区別が分かればいいんじゃないですか」と言われたこともあって、とても腹が立ったのですが、それは、お客さんですから我慢したり。

天天中文：日本は今やっとそういう考え方が終わって、一周遅れて中国に追いついた感じでしょうか。いろいろご苦労なさいましたね。…振り返って日本語を勉強してよかったな、と思えますか？一番得だったな、と思うのはどんなことでしょうか？

日本と日本人の印象は？

宋：私は18歳から日本語を勉強して、そのあと日本人と仕事をしてきて、日本のこと、日本人の考え方、価値観、社会的な習慣などがだんだんわかってきて、どんどん親しくなっていますよね。最初にフランス語やドイツ語などを選択していたら今どう思っていたのか、それは正直分かりませんが。でも、日本はとても近い国ですし、文化も近いところがあり、食事もとてもおいしいですし、私はどんどん日本が好きになっています。自分の家族も日本が好きになっていて、人間はお互いを理解すると、愛情がどんどん深まるのではないかと思います。

天天中文：宋さんからみた日本人像というのは、どんな感じでしょう？

宋：日本人像というと、まずとても細かく、几帳面な人が多いですね。仕事をする時も、生活、勉強する時も、社会生活全体も計画的な人が多いです。きれい好きな人も多いですね。あと、私を含め中国人の多くは、考えていることをはっきり言う人が多いですが、それと比べると日本人は言葉遣いがあいまいな人が多いですね。中国人は女性でも、家庭のなかでも主張が強いです。何か不満があればすぐ、はっきり言う人が多いですね。愛情もはっきり表現します。もちろん中国は広いし、そうでない人もいますので、全般的に日本と比べると、という話ですが。それはいいところもあるし、悪いところもあります。日本人と仕事とする時は相手の考えていることを推測する、そういうところで時間がかかったりします。それが日本人の特徴だと思います。

天天中文：日本人は自分で考え、主張をもっている、どう表現するか、というところで相手の顔色をみながら調整しますからね。

宋：あと日本人は全般的に似ている部分が多いです。好きな色、好きな服の形など。中国人は一人ひとりの違いはとて大きいです。あと、日本では会社間の取引がずっと続くことが多いですね。例えば原料の買い付けなど、別の会社のほうが安いのでお客さんに紹介しようとすると、「いえいえ、私はこの会社と何十年も仕事をしていますから」と断られることがよくあります。中国だともっと現実的で、別の会社の製品がより安くて品質が良ければ、すぐ切りかえます。日本人は歴史や関係を大事にしている印象があります。だから日本ではたとえ店構えが小さくても百年以上続いているところがたくさんありますね。中国ではどんどん新しいものが出てきますが、ずっと続けるのは得意ではないと思います。

天天中文：日本は保守的なのは良くないように見えることもありますが、長い目でみるとそれが逆に良いこともあるということでしょうか。

宋：そうですね。日本人には「ずっとこの関係を維持したい」という気持ちがあることもよく分かります。

中国の富裕層の若者たち

天天中文：それでは、今度、宋さんに中国人について教えてもらいたいと思います。都市部だけなのかもしれませんが、最近の中国では「躺平」といって、もう何もしないのがいい、という若者が増えているようですね。

宋：それは、私も感じているんです。特に「90后」と呼ばれる1990年代生まれの若者、「00后」と呼ばれる2000年代以降生まれの若者たちは、都市部であればみな一人っ子です。恵まれた環境で育っていて、私たちのような「頑張る」とか「苦勞してみる」とかいう気持ちがどんどん減っているように見えます。仕事をしても上司と揉めたらすぐやめる人も増えていきますし、恋愛とか結婚に関しても全然積極的でない子がとても増えています。最近、私の友達の娘さんと会いました。彼女は河南省に住んでいて、両親が私の友達です。彼女は10年間アメリカに留学していて、北京に戻ってきて中国の有名な弁護士事務所に入りました。彼女はアメリカのトップ10にはいる有名大学で博士課程に進んでいます。それで、会って話したら、結婚には興味がない、と言うんです。どうして？と聞いたら「私はもう生活をよりよくするための結婚は必要ない」と。両親は大金持ちだし、自分の給与もとても高いので、経済レベルを上げるための結婚は不要、男性と結婚すると、家事の負担をはじめ、男性のためにいろいろ

ろなことを考えなければならない。彼の家族とのやりとりもいろいろあるし、自分はそういうのは苦手。それよりも自分の好きなところに旅行したり、自分の飼い犬と遊んだりするほうがいい。結婚の意味が分からない、と言うんです。そんな若い人が本当に増えています。こういう話を聞くとびっくりしてしまいます。

天天中文：なるほど。全般的に、経済的にとても恵まれた人ではなく、普通の人でも、どこかおとなしくなっている印象が私にはあります。

満たされすぎ現象？

宋：結婚して、「自分より相手のことを考える」というのがすでに苦手な人が多いのではないかと思います。二人になると相手のことを考えないといけませんよね？あと結婚するとどうしても家事の負担はあるので、一人でいるほうがずっと楽、と思うようです。仕事はちゃんとして、そして自分の時間を全部仕事に捧げるのではなく、自分の好きなことをして。今、お話しした女性は、年収35万元（約630万円）くらいなのですが、たとえ年収100万元（1800万円）でも、土日や夜遅くまで仕事をしなければならないのなら、私は35万元でいい、と言うんです。

天天中文：ということは、それ以上、豊かになってもいいことない、それよりは自分の生活を楽しまたいという人が増えてきたということでしょうか。

宋：中国は都市部と農村部との生活レベルの差が激しすぎるから、農村の人はまだ食べるために必死に働く人も、少しでも収入をあげるために懸命に頑張る人もいます。でも都会だと、もうお金はどうでもいい、どうせ両親ものは全部私のもの、と思ってしまう子が多い。そう思ってしまうところも、中国の特徴です。また別の私の友達の子供は、海外の留学から戻ってきて、いま北京で働いていて毎月の給料が2万元（約36万円）です。でも足りない、といってお母さんがまたお小遣い1万元（約18万円）あげている。お母さんは私の伊藤忠時代の同僚ですが、どうしてそんなことをするの？と聞いたら、アメリカに子供が留学していた時期は毎月5万元（約90万円）の出費で、それに比べると安いから、自分でもあげたいから、と言うんです。そういうなかでどんどん若者の欲望や興味がなくなっている。経済能力の高い家庭は、だいたいそうになっていますね。

天天中文：はあ、お金持ちの中国人の家庭はそうになっているんですか。

宋：そういう家庭が増えています。親戚にも大金持ちの子供で、12歳ですが家に戻っても

何もせず一っつと携帯画面だけ見てる子がいます。「あなたには、頑張っていい大学に行きたい気持ちはないの?」と聞くと、「いい大学、っていい仕事をするため?仕事でもらえる給料ってせいぜい毎月2万元くらいでしょ。僕の両親は5億元(90億円)もっているから、2万元の仕事なんて意味がない」と言っていて。両親はもちろん恥ずかしく思っていて、いい大学に行かせたいと思っているけど、子供にはもう努力の意欲がないんです。

天天中文：一つの世代でこれだけ状況が変わるのは世界的に珍しいですね。

宋：日本やヨーロッパで若者に接したことがあります。国は中国より豊かですが子供はまだまだ中国よりも純粋、素朴な考え方をしている。私の友人はお金持ちが多いので、そういう考え方の子が多いのかもしれませんが。将来的に両親のような努力はあまりしたくないんです。マンションも車も全部あって、生活面では努力する意味がないんです。

天天中文：そういう子供たちも大変といえば、大変ですねえ。・

宋：お金持ちの家庭のなかで育っても彼らに幸せそうな表情がないんですよ。生まれてから自分が欲しいという前に欲しいものがどんどん与えられるので、逆にその子が幸せを感じる権利が奪われているように思います。両親には言えないけど、私はそう感じています。かわいそうですよ。やはり私は、ある程度経済力をもったうえで、仕事のために家族のために頑張れる気持ちを持っている人が一番幸せではないかと思っています。

この後、会員と宋さんとの間で、中国語学習や、中国文化をめぐる会話が続きました。

文・JEIS

